

学習1 語りの言葉と無常の考え方

考え方と確認例

軍記物語を読む

『平家物語』は、平家の栄えと衰え、源平の戦いなどを描く軍記物語で、鎌倉時代に成立しました。作者は未詳です。琵琶を伴う語りによっても伝えられてきました。歴史上の事件を背景にしますが、本文では人物や場面がどう表現されているかを読み取ります。

無常という見方

「無常」は、いつまでも同じ状態が続くものはないという見方です。強さや栄えも変化するものとして捉えます。ただ「悲しい」という気分の語ではありません。何が、どのように変わると述べているかを、本文の言葉と対応させましょう。

漢語をまとまりで読む

「諸行無常」「盛者必衰」などは、漢字が多くても、一つのまとまりとして意味を捉えると読みやすくなります。前者はすべてのものの変化、後者は栄える者の衰えに関わります。似ていても、表す範囲が全く同じというわけではありません。

たとえの三つの要素

たとえを読む時は、①たとえられるもの、②たとえに用いたもの、③両者に共通する性質、を分けます。作例「喜びは花のようだ」なら、喜びと花を対応させ、明るさなどの性質を文脈から考えます。たとえの名だけで説明を終わらせないようにします。

似た形を並べる表現

語句や文の形が対応して並ぶ表現を対句といいます。二つの文の同じ位置に注目すると、何を対応させているかが分かります。声に出した時の整った調子と、似た意味を重ねて強める働き of 両方を確かめましょう。

学習2 場面と人物の気持ちをつなぐ

考え方と確認例

位置関係を先に描く

戦いの場面では、人物や集団がどこにいるかを最初に整理します。紙の余白に海・岸・船などを置き、本文にある人物名を書き入れます。見ている人と行動する人を分けると、主語が省略された文でも動作を追いやすくなります。

難しさの根拠を見つける

「難しい」「緊張している」と説明するだけでは、読み取りの根拠が伝わりません。風・波・的の動き・見物する人々など、実際に描かれた条件を確かめます。自然の条件と、人々から見られることによる負担は、分けて整理すると明確です。

心の中の言葉も会話と同じように

かぎかっこの部分が、必ず声に出した発言とは限りません。「心の内に祈念して」のような前後の説明を読めば、心中の言葉だと分かります。祈る人、呼びかけられる相手、願いの内容を三つに分けて確認しましょう。

敬語・禁止を読み落とさない

神仏などに願う文では、敬意を表す語が重なる場合があります。難しい語は語注をきいて、「～してほしい」「～しないでほしい」の向きを押さえます。否定や禁止の一字を落とすと、願いと反対の内容になるので注意が必要です。

気持ちは描写から説明する

心情を問われたら、人物の言葉や行動を根拠にします。「目を閉じた」だけなら理由は一つに決められませんが、その後の祈りを合わせれば考えを絞れます。人物の発言と、読み手の推測とを区別して、本文以上に言い切らないようにしましょう。

学習3 動き・音・反応を短くまとめる

考え方と確認例

動作を順に追う

矢や的など、二つのものが同時に動く場面では、それぞれを主語にして順序を整理します。「矢は～」 「扇は～」とメモを分けると、どちらが上がり、どちらが落ちたかを取り違えにくくなります。出来事を省きすぎないことも大切です。

音を表す語の働き

音や動きを生き生きと表す言葉があると、読む人は場面を具体的に想像できます。表現の効果を問われたら、「迫力がある」だけで終えず、何の音・どんな動きを感じさせるかを説明します。音読して、文の調子も確かめてみましょう。

色と動きを分けて読む

景色の鮮やかさは、色の組合せや、光、浮き沈みなどの動きから生まれます。「美しい場面だ」という感想と、本文の描写そのものを分けて整理します。説明する時は、どの色の何が、どのように動いているかを具体的に示しましょう。

二つの集団を比較する

二つの集団の反応が並んだら、場所・動作・気持ちという同じ観点で比べます。反応の仕方が違って、気持ちには共通点があることがあります。戦いが終わったなど、本文に書かれていない結末まで推測を広げないようにします。

練習とテストの見直し

Aは冒頭の語句とたとえ、Bは射る前の状況、Cは射た後の描写を学び、Dで8問100点の確認をします。訳す問題では主語・否定・動作を点検し、説明問題では必要な根拠を数えます。語句の誤りと、根拠が足りない誤りを分けて解き直しましょう。

資料と使い方

出典と表記について

本文・訳・設問について

古典原文は保護期間満了の作品を使用。現代語訳・語注・学習の手引き・設問・解答解説は本教材のために独自作成。

中学2年生が、語注や文脈を手掛かりに古文を読むための教材です。学校や教科書によって扱う作品や順序は異なります。

字数は句読点・かぎカッコ・小さい仮名も各1字と数えます。抜き出しは本文の表記どおりに書き、指定がない限り前後の句読点・かぎカッコは含めません。確認テストの各問の得点は0点を下限とし、空欄は0点です。

祇園精舎・古典原文

<https://www.koten.net/heike/gen/001/>

扇的・古典原文

<https://www.koten.net/heike/gen/163/>

原典・親本と保護期間の情報

<https://www.koten.net/heike/fuki/>

出典確認日 2026年10月10日。出典の現代語訳・解説・設問の転載ではありません。